

科目名 (英)	心理学Ⅱ PsychologyⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田島 葵
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 3, 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 様々な対象への相談支援に関わっている教員が、「聴く・共感する」とはということかという観点から講義を進めていく。実際の知識を学び演習することで、知識の暗記ではなく技能としての定着ができるよう授業を進めていく。コミュニケーションのツールが「自分」であることから、自己覚知を進めながらの講義となる。失敗しても、わからなくてもOKなので、毎回の演習には積極的な参加を望む。							
【到達目標】 ・対人援助職にとって必要な基本的コミュニケーションスキルを習得する ・自分の対人関係での癖を説明できる							
【使用教科書・教材・参考書】 「聴く・伝える・共感する技術便利帖」 大谷桂子著 翔泳社				【授業外における学習】 毎回の授業で確実に理解して欲しいことを小テストで出題するため、その内容を確実に復習すること。また予習としてテキストを読んでからの受講を望む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 バイステックの7原則を説明できる ラポールとは何か説明できる 【授業内容】 対人援助の基本的態度			9	【到達目標】 自分のステレオタイプを説明できる 自分のコアビリーフを説明できる 【授業内容】 自己覚知		
2	【到達目標】 話しやすい雰囲気のポイントを列挙できる オープンクエスチョンで会話できる 【授業内容】 聞き上手になるポイント			10	【到達目標】 同情と共感の違いを列挙できる アンビバレンツとは何かを説明できる 【授業内容】 共感する技術		
3	【到達目標】 オープン・ポジションの特徴を列挙できる ペーシングとミラーリングしながら会話できる 【授業内容】 相手が話しやすくなるポイント			11	【到達目標】 アセスメントのポイントを列挙できる 支持的応答のポイントを列挙できる 【授業内容】 アセスメントと支持的応答		
4	【到達目標】 相手の感情を受け止める会話ができる 4つの対人距離を列挙できる 【授業内容】 会話で避けるべきこと			12	【到達目標】 適切な目標設定ができる 【授業内容】 ブリーフセラピー		
5	【到達目標】 メラビアンの法則を説明できる 基本的な話の順序を使って会話できる 【授業内容】 伝え上手になる技術			13	【到達目標】 共感を阻害する自分の思い込みは何かを説明できる 【授業内容】 自己覚知演習		
6	【到達目標】 好まれる声の出し方で会話できる 聴き手を観察しながら会話できる 【授業内容】 印象のコントロール			14	【到達目標】 アサーティブについて説明できる アンガーマネジメント法を列挙できる 【授業内容】 スーパービジョンとアサーション		
7	【到達目標】 論理的に伝えるためのポイントを説明できる 了解がもらえる依頼方法で会話できる 【授業内容】 ロジカルシンキング			15	【到達目標】 対人援助職に必要な知識・技術が習得できているか確認し、復習に生かす 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 7回目までの内容が理解できているか確認する 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 自分で大切だ、覚えておきたいと思ったことはメモを取る							

科目名 (英)	統計学 Statistics	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	BSC(ブレースタッフコンサルタンツ)
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科 2年						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) プログラマー、Webデザイナー、パソコン教室の講師、ITコンサルタントなどの実績を持つ所属インストラクターが講義を実施							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 滋慶学園グループ所属企業の(株)ブレースタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて講義を実施。Excelの基本的な操作と、Excel統計処理を学習。 学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。							
【到達目標】 ・Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる ・Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活用できる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、 オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 e-learningテキストで操作方法を確認し、 繰り返し練習することでスキルを定着する			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 Excel基礎1 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる 【授業内容】 1 表の作成(復習) 2 オートフィル 3 数式の作成 4 SUM関数 5 グラフ作成 6 印刷			9	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)1 データの特徴を数値化できる (平均、分散、標準偏差) 【授業内容】 ・平均と分散の意味と求め方 ・標準偏差の意味と求め方		
2	【到達目標】 Excel基礎2 関数を駆使した資料を作成できる 【授業内容】 1.割合を求める 2.相対参照と絶対参照 3. AVERAGE関数 4.COUNTIF関数 5. シートの操作			10	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)2 データの特徴を視覚化できる1 (基本統計量を求める、ヒストグラムの作成) 【授業内容】 ・分析ツールの使用 ・基本統計量の算出 ・度数分布表(ヒストグラム)の作成 ・標準偏差のグラフ図示		
3	【到達目標】 Excel基礎3 グラフを駆使した資料を作成できる 【授業内容】 1.目的に応じたグラフ作成 2.グラフのレイアウト 3.行や列の挿入 4.グラフの編集 5.目的に応じたグラフ作成2			11	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)3 データの特徴を視覚化できる2 (散布図、相関係数を求める) 【授業内容】 ・散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す ・相関係数の算出		
4	【到達目標】 Excel応用A データベース機能を理解し活用できる 【授業内容】 1.データベース 2.データの並べ替え 3.フィルター(抽出) 4.ウィンドウ枠の固定 5.印刷タイトル			12	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)4 統計的検定を実施できる1 【授業内容】 ・母集団・標本・抽出について ・統計的検定の手法について ・t検定(一対の標本の平均値の差の検定) ・F検定(分散の検定)		
5	【到達目標】 Excel応用B 応用的な関数を活用できる1 【授業内容】 1.RANK.EQ関数 2.SUMIF関数 3.TODAY関数 4.NOW関数 5.DATEDIF関数			13	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)5 統計的検定を実施できる2 【授業内容】 ・t検定の種類、使い分けについて ・t検定(独立2標本の母分散が等しい平均値の差の検定) ・t検定(独立2標本の母分散が等しくない平均値の差の検定)		
6	【到達目標】 Excel実践 計算機能を使用した表作成と、グラフ作成ができる 【授業内容】 1.表作成 2.数式・関数を使用した計算 3.目的に応じたグラフ作成・編集			14	【到達目標】 初級データサイエンス試験対策 初級データサイエンス(統計編)で習ったことを実践できる 【授業内容】 初級データサイエンス(統計編)復習問題の実施		
7	【到達目標】 Excel試験対策 Excel基礎1-3で習ったことを実践してデータ処理をおこなえる 【授業内容】 Excel復習問題の実施			15	【到達目標】 初級データサイエンス試験 前期試験 【授業内容】 前期試験		
8	【到達目標】 Excel中テスト 前期中テスト 【授業内容】 前期中テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児科学 Pediatrics	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古市 奏絵
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 水曜 3, 4限
【実務経験】 産婦人科で5年従事その後保育園にて看護師として医療介入の必要な園児を担当							
【授業の学習内容】 言語聴覚士が小児療育に携わるにあたり、必要な基礎知識を疾患ごとに取得していく 成長・発達時期に起因する疾病の原因、診断、治療について学び、専門分野の基礎とする 小児分野において成人とは異なる特有の生理をはじめ発達や病的状態の理解を行う							
【到達目標】 小児の成長・発達の特徴を理解する 小児の発達過程の特徴を説明することができる 周産期医学、障害、疾患について説明することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための基礎知識「小児科学・発達障害学」第3版 医学書院				【授業外における学習】 医療専門用語や難しい内容も多いので事前学習や予習をして講義を受ける また、講義後は復習を行う			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 小児の成長・発達を学び理解することができる 【授業内容】 小児科学概論、小児の発達・成長			9	【到達目標】 循環器系疾患について学び理解することができる 【授業内容】 正常な血行動態・心構造、循環器疾患に伴う症状、循環器疾患を診断するための検査、先天性心疾患、後天性心疾患、不整脈		
2	【到達目標】 小児保健について学び理解することができる 【授業内容】 育児、乳幼児健診、事故、予防接種、児童虐待			10	【到達目標】 呼吸器疾患・感染症について学び理解することができる 【授業内容】 小児呼吸器の病態生理学的特徴、解剖的呼吸器疾患、感染経路別対策、学校感染症、予防接種、疾患各論		
3	【到達目標】 小児疾患の診断法について学び理解することができる 【授業内容】 小児疾患の診断法、問診、診察法、主要症状による鑑別診断			11	【到達目標】 消化器疾患・内分泌・代謝疾患について学び理解することができる 【授業内容】 消化器の正常な機能、消化器疾患の主要な症候、消化器疾患、内分泌疾患、代謝系疾患		
4	【到達目標】 遺伝疾患と先天異常について学び理解することができる 【授業内容】 遺伝疾患の分類と頻度、主な染色体異常症、先天奇形、先天代謝異常			12	【到達目標】 免疫・アレルギー疾患・膠原病について学び理解することができる 【授業内容】 免疫疾患、アレルギー総論、アレルギーの診断、アレルギー性疾患各論、膠原病・自己免疫疾患		
5	【到達目標】 新生児疾患について学び理解することができる 【授業内容】 新生児・周産期とは、新生児の分類と用語、ハイリスク新生児、新生児の生理と適応、低出生体重児・早産児、新生児仮死			13	【到達目標】 腎・泌尿器・生殖器疾患について学び理解することができる 【授業内容】 基本的知識、症候、検査、糸球体疾患、全身性疾患に伴う腎障害、遺伝性腎疾患、尿管・間質性疾患、腎不全、腫瘍、尿路感染症、腎・尿路の先天異常、生殖器疾患		
6	【到達目標】 新生児疾患について学び理解することができる 【授業内容】 中枢神経系の障害、呼吸器疾患、循環器疾患、新生児感染症			14	【到達目標】 血液疾患・悪性腫瘍 心身症・神経症 眼科・耳鼻科系疾患について学び理解することができる 【授業内容】 貧血、出血性疾患、白血病、悪性腫瘍、子どもの心身症、眼科系疾患、耳鼻科系疾患		
7	【到達目標】 神経・骨・筋肉疾患について学び理解する 【授業内容】 神経系			15	【到達目標】 授業の内容の理解を深め定着、説明することができる 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 神経・骨・筋肉疾患について学び理解する 【授業内容】 骨・運動器、骨系統疾患			【評価について】 筆記試験による定期試験90点、授業態度10点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	精神医学 Psychiatry	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	近藤由以子
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後 期 水 曜 3, 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 医療系大学にて言語聴覚療法学専攻。大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科に所属。言語聴覚士・臨床心理士および公認心理師							
【授業の学習内容】 予定：病的なうつ、精神病状態に陥った場合には、健康的な人を対象に体系化された心理学では、見立てや対応をすることは難しい。精神医学の知識がないと、治療できない。異常な心の在り方や精神現象を対象として学ぶ。							
【到達目標】 授業内容を理解することで国家試験合格基準に達するような学力を高めることが目標。8回の授業ではあるが、事例を多用することで、6割以上の得点率をとる実力をつけていく。							
【使用教科書・教材・参考書】 精神神経疾患ビジュアルブック 学研メディカル秀潤社				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 症候性精神障害の総論を理解し、せん妄や薬剤性精神障害の概要を理解し、対応する国家試験問題に答えることが出来る。 【授業内容】 症候性精神障害とは、せん妄の概要、身体疾患を治療する薬剤による精神症状の概要、国家試験対策。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 精神作用物質使用による精神障害および行動の障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 アルコール依存症の概要、アルコール以外の精神作用物質依存(覚せい剤やドラッグなど)についての概要、国家試験対策。			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 気分障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 うつ病、双極性障害についての概要、国家試験対策。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 統合失調症について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 統合失調症について、妄想性障害についての概要、国家試験対策。			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 神経症性障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。① 【授業内容】 中間テスト(10点満点)20分。 不安と不安障害についての概要、国家試験対策。			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 神経症性障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。② 【授業内容】 強迫性障害と解離性障害についての概要、国家試験対策。			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 ストレス障害と適応障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 心的外傷後ストレス障害について、適応障害についての概要、国家試験対策。			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期試験 【授業内容】			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦・内尾 紀彦
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 3, 4限
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、摂食嚥下機能障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 耳鼻咽喉科領域における主な疾病の成り立ち・病態等をわかりやすく解説し理解を促す。これをもとに、医療者のひとりとして病状の安定の安定を支援する。また、障害を理解して患者様の苦しみを共有できるようになる。							
【到達目標】 耳鼻咽喉科領域における主な疾病の原因、病態、症状等を学び、ここから生じる障害を理解する。さらに、これらに苦しむ患者様に共感し、これを支援する医療者としての資質も養う。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック」学研メディカル秀潤社				【授業外における学習】 ・復習をしっかりとすること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 耳の解剖生理について理解し説明できる 【授業内容】 耳の解剖生理			9	【到達目標】 外耳疾患・中耳疾患の病態を説明できる① 【授業内容】 外耳道炎・先天性外耳道閉鎖症・急性中耳炎・慢性中耳炎・真珠性 中 耳炎・滲出性中耳炎・耳硬化症・耳管開放症		
2	【到達目標】 耳の症候、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 耳の症候、診察、検査、治療			10	【到達目標】 外耳疾患・中耳疾患の病態を説明できる② 【授業内容】 外耳道炎・先天性外耳道閉鎖症・急性中耳炎・慢性中耳炎・真珠性 中 耳炎・滲出性中耳炎・耳硬化症・耳管開放症		
3	【到達目標】 鼻の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 鼻の解剖生理			11	【到達目標】 内耳疾患・顔面神経疾患・耳科手術の病態を説明できる 【授業内容】 突発性難聴・騒音性難聴・老人性難聴・遺伝性難聴・内耳炎 ベル麻痺・ハント症候群・顔面痙攣・鼓室形成術・人工聴覚器の手術		
4	【到達目標】 口腔・咽頭の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 口腔・咽頭の解剖生理			12	【到達目標】 めまい疾患・固有鼻腔と副鼻腔の疾患・口腔疾患の病態を説明できる 【授業内容】 メニエール病・良性発作性頭位めまい症・前庭神経炎・聴神経腫瘍・薬物中毒・急性副鼻腔炎・鼻アレルギー・急性副鼻腔炎・慢性副鼻腔炎		
5	【到達目標】 喉頭の解剖生理について理解し説明できる 【授業内容】 喉頭の解剖生理			13	【到達目標】 口腔疾患・唾液腺疾患・鼻咽腔閉鎖不全の病態を説明できる① 【授業内容】 舌炎・口内炎・口腔・舌腫瘍・唇裂・口蓋裂・急性扁桃炎・慢性扁桃炎・アデノイド増殖症・睡眠時無呼吸症候群・急性耳下腺炎・ムンプ		
6	【到達目標】 喉頭の診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 喉頭の診察・検査治療			14	【到達目標】 口腔疾患・唾液腺疾患・鼻咽腔閉鎖不全の病態を説明できる② 【授業内容】 舌炎・口内炎・口腔・舌腫瘍・唇裂・口蓋裂・急性扁桃炎・慢性扁桃炎・アデノイド増殖症・睡眠時無呼吸症候群・急性耳下腺炎・ムンプ		
7	【到達目標】 頭部・顔面の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 頭頸部の解剖生理			15	【到達目標】 耳科学・鼻科学・口腔咽頭科学の解剖生理病態を説明できる 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 耳鼻咽喉に関する解剖生理、診察・検査、治療が説明できる 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床神経学 clinical neurology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	柴崎倭花
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 3, 4限
【実務経験】 急性期病院の言語聴覚士。今まで急性期や回復期の病院、外来のクリニック等で10年以上の臨床経験がある。							
【授業の学習内容】 予定：脳神経領域の疾患と障害を理解するために、脳神経の解剖・生理学の理解させる。言語聴覚臨床で遭遇する神経疾患を系統だてて分類、学習し、発症メカニズム、臨床症状を、1年次に学習した解剖・生理学的知識を参考にしながら学ぶ。							
【到達目標】 脳を中心とした中枢神経の解剖、機能を基本を理解したうえで、脳血管障害、神経変性疾患などの神経疾患の各論について発症のしくみ、疾患の特長、治療の基本を習得する。これらの神経疾患で生じる障害を系統的に理解して、言語聴覚士としての疾患理解、患者理解の基礎とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 脳神経疾患ビジュアルブック(株式会社学研プラス)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 中枢神経の構造(解剖)と機能局在の概要について学習する。中枢神経の機能と臨床症状の関連を理解する。 【授業内容】 中枢神経の構造と機能について学ぶ			9	【到達目標】 感染症による脳炎の進行、症状などの特長をしる。自己免疫介在性脳炎について学び、感染症による脳炎との違いを知る。 【授業内容】 炎症性脳疾患(脳炎)について学ぶ		
2	【到達目標】 脳MRI、脳CT、脳血流SPECT等の神経放射線検査について知る。神経学的診察による神経症状の症状を知る。 【授業内容】 神経検査について学ぶ			10	【到達目標】 アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭認知症、脳血管性認知症について、その特徴と対応について説明できる。 【授業内容】 認知症について学ぶ		
3	【到達目標】 意識障害、脳神経麻痺、運動麻痺、感覚(表在知覚、深部知覚)障害について学習する。 【授業内容】 神経症候について学ぶ			11	【到達目標】 遺伝性ニューロパチー、後天性(栄養障害性、中毒性)ニューロパチー、ギランバレー症候群について説明できる。 【授業内容】 末梢神経障害について学ぶ		
4	【到達目標】 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害の各疾患についての特長とその治療について知る。脳局在機能と症状について復習する。 【授業内容】 脳血管障害について学ぶ			12	【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経変性疾患について説明できる。 【授業内容】 神経変性疾患について学ぶ		
5	【到達目標】 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害の各疾患についての特長とその治療について知る。脳局在機能と症状について復習する。 【授業内容】 脳血管障害について学ぶ			13	【到達目標】 多発性硬化症、ADEMなどの脱髄疾患、ギランバレー症候群などについて説明できる。 【授業内容】 脱髄性疾患について学ぶ		
6	【到達目標】 脳腫瘍全般の症状の特長との種類(良性・悪性、細胞種別腫瘍)による予後や治療法の違いを知る。脊髄疾患を理解する。 【授業内容】 脳腫瘍、脊髄疾患について学ぶ			14	【到達目標】 ミオパチー・筋ジストロフィーについて各疾患の特長を説明できる。重症筋無力症などの神経筋接合部疾患について説明できる。 【授業内容】 筋疾患・神経接合部疾患について学ぶ		
7	【到達目標】 脳外傷により生じる出血性疾患や脳挫傷、びまん性軸索損傷について知る。水頭症について知る。 【授業内容】 頭部外傷・水頭症について学ぶ			15	【到達目標】 臨床神経学の解剖・生理と疾患の特長について、基本的知識の習得を確認する。 【授業内容】 定期試験、総復習		
8	【到達目標】 アルコール性神経障害、ウェルニッケ脳症、一酸化炭素中毒など代謝、中毒性疾患について各疾患の特徴を知る。 【授業内容】 アルコール性神経障害、ウェルニッケ脳症、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。※中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	学習・認知心理学 Learning and cognitive psychology	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	柳 忠宏
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、6年の心理臨床経験がある。							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる学習・認知心理学の理論について、体系的に学習する。 また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 心理機能の仕組みと働き、ことばや学習・認知機能のメカニズムを説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。 分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 感覚の種類、感覚可能範囲と感度、物理量と心理量を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、感覚			9	【到達目標】 概念、問題解決、推論を説明できる。 【授業内容】 思考・知識		
2	【到達目標】 感覚内の次元、順応と対比・同化、感覚遮断を説明できる。 【授業内容】 感覚			10	【到達目標】 認知の偏り、表象、知識の構造を説明できる。 【授業内容】 思考・知識		
3	【到達目標】 色覚知覚、空間知覚、形態知覚、運動知覚、知覚の恒常性を説明できる。 【授業内容】 知覚・認知			11	【到達目標】 非言語的・前言語的コミュニケーション、象徴・記号・言語を説明できる。 【授業内容】 言語		
4	【到達目標】 知覚の統合・相互作用、知覚運動協応、注意、オブジェクト認知、認知地図を説明できる。 【授業内容】 知覚・認知			12	【到達目標】 言語使用と知識、言語理解と産出を説明できる。 【授業内容】 言語		
5	【到達目標】 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、弁別学習、技能学習、社会的学習を説明できる。 【授業内容】 学習			13	【到達目標】 印象形成、対人魅力を説明できる。 【授業内容】 対人認知		
6	【到達目標】 学習の転移、動機づけ、要求水準、学習性無力感を説明できる。 【授業内容】 学習			14	【到達目標】 ステレオタイプ、認知的不協和を説明できる。 【授業内容】 対人認知		
7	【到達目標】 記憶過程、記憶の分類を説明できる。 【授業内容】 記憶			15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、学習・認知心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、学習・認知心理学の理解を深める。 記憶範囲・記憶容量、忘却を説明できる。 【授業内容】 中間試験、記憶			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	心理測定法 Psychological Measurement	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	田島 葵
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 3, 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる心理測定法の理論について、体系的に学習する。 また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 心理機能の科学的な測定法や検証法を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。 分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 閾値の測定を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、心理物理学的測定法			9	【到達目標】 質問紙法を説明できる。 【授業内容】 調査法		
2	【到達目標】 尺度水準、誤差を説明できる。 【授業内容】 心理物理学的測定法			10	【到達目標】 サンプリングを説明できる。 【授業内容】 調査法		
3	【到達目標】 標準化を説明できる。 【授業内容】 テスト理論			11	【到達目標】 記述統計を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
4	【到達目標】 妥当性、信頼性を説明できる。 【授業内容】 テスト理論			12	【到達目標】 推測統計を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
5	【到達目標】 因子分析を説明できる。 【授業内容】 テスト理論			13	【到達目標】 検定を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
6	【到達目標】 評定法、順位法を説明できる。 【授業内容】 尺度構成法			14	【到達目標】 検定を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
7	【到達目標】 一対比較法、比率尺度構成法、多次元尺度構成法を説明できる。 【授業内容】 尺度構成法			15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、心理測定法の理解を深める。 【授業内容】 期末試験		
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、心理測定法の理解を深める。 質問紙法を説明できる。 【授業内容】 中間試験、調査法			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	言語学Ⅰ LinguisticsⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	武田 桃子
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 予定:言語の概念を知り、文法や意味などを科学的な視点から理解する。							
【到達目標】 言語学の様々な分野における基礎知識を身につけ、科学的に言語を分析する視点を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」 医学書院 □				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ことばとは何か、言語学で学ぶ内容を理解する 【授業内容】 言語学の基礎①			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 記号体系と言語について理解する 【授業内容】 言語学の基礎②			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 言語の産生を支える性質を理解する 【授業内容】 言語学の基礎③			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 講義の前半の振り返りをし、知識を定着させる 日本語の音素、弁別素性、音韻規則を理解する 【授業内容】 中間テスト、音韻論			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 文法論の概要、形態素、語形変化を理解する 【授業内容】 文法論(形態論。統語論)			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 語の意味、文の意味、文の情報構造を理解する 【授業内容】 意味論と語用論			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 言語学と言語聴覚療法のつながり、構文検査の概要を理解する 【授業内容】 言語学と臨床			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、言語学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期試験、講義の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	音響学・聴覚心理学Ⅰ Acoustics and Audio PsychologyⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	武田 桃子
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 1, 2限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 予定：前半で、音の物理的な性質や音声生成、音響理論、言語音の音響的特徴、音声の音響分析などを、後半で、音の知覚や心理学について学習する。							
【到達目標】 音の構成を物理化学的に分析する音響学や、音の心理的側面について学習する。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：「言語聴覚士のための音響学 2訂版」 医歯薬出版 参考書：「ビジュアル音声学」 三省堂、 配布配布				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 音について、音の性質(周波数、周期、波長、音速)、音の種類を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面①			9	【到達目標】 アクセントイントネーション、ピッチ曲線を理解する。 【授業内容】 超分節的要素の音響的特徴と知覚		
2	【到達目標】 スペクトル、音の要素(音の強さと音圧、デシベル)を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面②			10	【到達目標】 音声の音響分析について学び、理解する。 【授業内容】 音声分析		
3	【到達目標】 音圧レベルの定義、音圧レベルの計算を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面③			11	【到達目標】 音の大きさと音圧の関係を理解し、音の大きさの尺度について説明ができる。 【授業内容】 音の心理物理学①		
4	【到達目標】 聴力レベル、感覚レベルの定義、音圧レベルとの関係性を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面④			12	【到達目標】 音の高さと音の周波数成分の関係を理解し、音の高さの尺度について説明ができる。 【授業内容】 音の心理物理学②		
5	【到達目標】 共鳴、音響管、声道共鳴、定在波を理解する。 【授業内容】 音響管の周波数特性			13	【到達目標】 音声を聴覚心理学的視点から理解する。 音の同時処理や継時的処理について理解する。 【授業内容】 音声の知覚、マスキング		
6	【到達目標】 線形システム、ソースフィルタ理論を理解する。 【授業内容】 音声生成の音響理論			14	【到達目標】 音の聞こえ、両耳効果を理解する。また、環境による聞こえについて理解する。 【授業内容】 両耳の聞こえ、環境と聴覚		
7	【到達目標】 講義の前半の知識の定着 基本周波数、母音などの言語音の音響的特徴を理解する。 【授業内容】 中間テスト、言語音の生成と知覚①			15	【到達目標】 講義で学んだ知識の定着 【授業内容】 定期試験、授業の振り返り		
8	【到達目標】 子音の音響特性、構音方法、音声学との関わりを理解する。 【授業内容】 言語音の生成と知覚②			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会保障制度・関連法規Ⅰ Social Security System・ Related LawsⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋 均
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 火曜 2 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 県職員として、児童相談所、県立病院、リハビリテーションセンターなどでソーシャルワーカー等の社会福祉・医療関連37年間の実務経験を持つ。							
【授業の学習内容】 児童福祉、障害者福祉、医療等の分野で、ソーシャルワーカーやケアワーカーとしての実務経験と、社会福祉士(1997年資格取得)としての実践経験を活かした授業を行う。本科目では、「社会福祉サービス」を中心に「社会保障制度」を現実の問題を踏まえて理解し、将来の専門職として実践していくのに役立つよう講義を進めていきたい。							
【到達目標】 ・社会保障・社会保障制度について、言語聴覚士としての職務に役に立つ知識や考え方を身につけ、実践力を高める。 ・国家試験に合格できる力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 コメディカルのための社会福祉概論第5版(講談社)				【授業外における学習】 なるべく普段から新聞やテレビのニュースなどの社会福祉に関する話題に関心に向ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚士にとって必要な社会福祉・社会保障の基礎的な概念を理解をする。 【授業内容】 オリエンテーション。社会保障と社会福祉の基礎概念			9	【到達目標】 子どもとその家庭に関わる福祉制度について理解する。 【授業内容】 子ども家庭福祉制度		
2	【到達目標】 公的年金制度と、労災等の労働保険制度について理解を深める。 【授業内容】 年金制度と労働保険			10	【到達目標】 言語聴覚士にかかわりの深い聴力障害等障害者(児)福祉について、その理念や制度について理解する。 【授業内容】 障害者福祉の法律 身体障害手帳		
3	【到達目標】 医療従事者にとって重要な医療関係制度を理解する。 【授業内容】 医療制度と医療保険			11	【到達目標】 前回に続き、障害児・者の福祉サービスについて理解する。 精神障害者福祉について理解する。 【授業内容】 障害児・者のサービス制度 精神障害者福祉の制度		
4	【到達目標】 社会福祉制度全般について、その仕組みを理解する。 【授業内容】 社会福祉の法体系、実施機関、社会福祉施設			12	【到達目標】 言語聴覚士にもかかわりの深い高齢者を支える制度について理解を深める。 【授業内容】 高齢者福祉の法律 介護保険		
5	【到達目標】 貧困問題と公的扶助(生活保護制度)について理解する。 【授業内容】 貧困問題と生活保護制度、その他貧困対策			13	【到達目標】 前回に続き、高齢者福祉について、地域福祉の側面から理解を深める。 【授業内容】 地域福祉論 地域包括ケアシステム		
6	【到達目標】 ソーシャルワークなど社会福祉の援助技術を学ぶことにより、対人援助者としての専門性を理解する。 【授業内容】 社会福祉の援助技術(ソーシャルワーク等)			14	【到達目標】 福祉と医療の連携と言語聴覚士に期待される役割について考える。 【授業内容】 福祉・医療の連携のしくみ 専門職に期待される役割		
7	【到達目標】 社会福祉や医療の専門職について理解し、自覚を深める。 【授業内容】 社会福祉・医療の専門職			15	【到達目標】 これまでの学習の確認。国家試験対応の自覚を深める。 【授業内容】 定期試験とその解説		
8	【到達目標】 中間テストによりここまでの学習の確認 言語聴覚士業務にも関連する母子保健について理解する。 【授業内容】 中間テスト 母子保健制度			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	リハビリテーション概論	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	芳野・下岡・長島	
	Introduction of Rehabilitation	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	前期	
学科・コース	言語聴覚士科					曜日・時間	木曜 1、2or3、4限	
【実務経験】								
芳野:理学療法士として病院・診療所にて実務経験23年。急性期から生活期まで言語聴覚士を含めた多職種との連携した経験がある。								
下岡:作業療法士として病院・介護老人保健施設等で実務経験23年半。2004年から多職種連携を学び、STとは糖尿病患者の対応や摂食嚥下で連携していた。								
長島:理学療法士として病院・診療所にて実務経験26年。急性期から生活期まで、病院及び地域の多職種と連携した経験がある。								
【授業の学習内容】								
リハビリテーションの専門職である言語聴覚士としてリハビリテーションとは何か概念や歴史等を学ぶ。さらに言語聴覚士として連携が必須である他職種の業務内容および連携する場面などを各専門職種として経験豊富な講師から実践例を挙げつつ学ぶ。加えて、近年必要性が高まってきている多職種連携についても、ロールプレイなどの実践を通しながら理解する。本授業は複数の講師によるオムニバス授業である。								
【到達目標】								
・リハビリテーション専門職である言語聴覚士として多職種と連携を行えるために、リハビリテーションの概念・他職種の職域とそれらとの連携について学ぶ。								
・リハビリテーションの概念を説明することができる。								
・言語聴覚士と関わる他職種の役割・特徴および言語聴覚士との類似点・相違点・多職種と関わる方法・注意点について説明できる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
「リハビリテーションビジュアルブック第2版」 講師によっては配布資料あり				指定教科書を予習を要する。 講師によっては、事前課題を課す。				
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【授業単元】リハビリテーション概論(芳野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 リハビリテーション概念・歴史等の説明ができる。 急性期～生活期リハ・等の様々な領域のリハビリテーションについて説明ができる。			9	【授業単元】理学療法とは・理学療法の資格とその業務(芳野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 理学療法とは何か・関わる対象者・その方法について説明できる。			
2	【授業単元】リハビリテーション概論(芳野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 リハビリテーション概念・歴史等の説明ができる。 急性期～生活期リハ・等の様々な領域のリハビリテーションについて説明ができる。			10	【授業単元】理学療法士と言語聴覚士との連携(芳野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 理学療法士と言語聴覚士の連携について説明できる。			
3	【授業単元】リハビリテーション概論(芳野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 障害およびICFについて説明ができる。 リハビリテーションにかかわる社会制度について説明できる。			11	【授業単元】作業療法とは(下岡) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 作業療法の定義、作業療法とは何か・関わる対象者・その方法について説明できる。			
4	【授業単元】リハビリテーション概論(芳野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 障害およびICFについて説明ができる。 リハビリテーションにかかわる社会制度について説明できる。			12	【授業単元】作業療法士と言語聴覚士との連携(下岡) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 作業療法士と言語聴覚士の連携について説明できる。			
5	【授業単元】多職種連携(下岡) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 多職種連携のとは何か・その歴史・必要性・必要な能力について説明ができる。			13	【授業単元】小児領域のリハビリテーション(長島) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの役割が説明できる。			
6	【授業単元】多職種連携(下岡) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 各職種に分かれロールプレイを行い、連携を実践することができる。 他の職種の役割を理解し説明できる。			14	【授業単元】小児領域のリハビリテーション(長島) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの実践について説明できる。			
7	【授業単元】小児領域のリハビリテーション(長島) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの役割が説明できる。			15	【授業単元】定期試験、総復習(芳野) 【授業形態】筆記試験、講義 【到達目標】 これまでの講義内容の習得状況を確認し総復習をすることで、リハビリテーションの概念および多職種連携について明確に説明できる。			
8	【授業単元】小児領域のリハビリテーション(長島) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの実践について説明できる。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)				
【特記事項】								

科目名 (英)	地域言語聴覚療法学 Community-based Speech and hearing therapy	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	吉田 直行
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 訪問看護ステーションと歯科クリニックで言語聴覚士として在宅分野でのリハビリを提供してきた経験を持つ							
【授業の学習内容】 在宅分野で得た経験を活かして関連する制度やリハビリテーションの実際を未経験の学生にも理解しやすく授業を行う。特にリハビリテーションに関わることに 関しては、症例検討等を行い、グループディスカッションで学生のアウトプットする場を設け、理解を深めていく。							
【到達目標】 ・地域言語聴覚療法とは何かを知り、地域で働くSTとしての役割を考える。・介護予防における言語聴覚士の取り組みを理解する。 ・地域包括ケアシステムとそれに関連する制度について理解する。・地域言語聴覚療法における情報収集から訓練までの流れ、それに必要な連携・リスク管理等 について理解する。・地域言語聴覚療法の実際について、症例を通して理解を深める。							
【使用教科書・教材・参考書】 「地域言語聴覚療法学」医学書院 配布資料				【授業外における学習】 基本的な評価方法や訓練方法などは予め予習してきもらう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 地域言語聴覚療法とは何かを知り、地域で働くSTとしての役割を理解する。 【授業内容】 地域言語聴覚療法とは・地域言語聴覚療法の実際 地域における連携・制度・特徴			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 地域包括ケアシステムとそれに関連する制度について理解する。 【授業内容】 地域包括ケアシステム・医療関連のシステムと制度 介護関連のシステムと制度			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 地域包括ケアが必要になる社会的背景を知り、介護予防における 言語聴覚士の取り組みを理解する。 【授業内容】 地域包括ケアにおける言語聴覚療法 介護予防における言語聴覚療法			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 地域言語聴覚療法におけるサービスと役割について理解する。 【授業内容】 外来・通所・入所・在宅における言語聴覚療法			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 地域言語聴覚療法における情報収集から訓練までの流れ、それに 必要な連携・リスク管理等について理解する。 【授業内容】 情報収集と評価・支援計画および訓練・指導・援助・職種間連携 リスク管理			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 地域における連携について関連職種を知り、連携の原則を理解す る。 【授業内容】 関連職種と言語聴覚士の役割・連携の種類、原則			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 地域言語聴覚療法の実際について、症例を通して理解を深める。 【授業内容】 失語症・摂食嚥下障害			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期テストを行い理解度を確認する。振り返りを行い理解できな かった部分を復習する。 【授業内容】 定期テスト・解答解説＆振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅱ Diagnosis of Speech and Hearing Impairment Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穰 , 平野 祐紀
	学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義演習	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 成人領域を対象に、障害を持つ患者に対する実際の臨床について学んでいく。情報収集においてそれぞれが持つ目的や、評価・診断をするために必要なスクリーニングや検査法の特徴を理解し、結果の処理・解釈に関する知識を身につける。臨床実習に携わってきた実務経験を活かし、わかりやすい授業を行なう。							
【到達目標】 ① 成人領域の障害について、的確に評価・診断していく過程を理解し説明することができる。 ② 評価・診断の流れをイメージし、対応できる、また文章での表現ができる。 ③ 評価・診断の結果から、適切な訓練プログラムを立案できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 医学と看護社「明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断－成人編－」 ※ その他資料				【授業外における学習】 レポートにて表現をすることが多いため、文章での表現に少しでも慣れておくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚障害診断における目的、鑑別診断、障害の有無やタイプ、特徴などを評価する必要性を説明することができる 【授業内容】 ①評価とは何か ②発症経過ごとの評価の目的			9	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
2	【到達目標】 評価の重要性を知り、訓練、治療プログラムを選択するまでの臨床的な流れを説明することができる 【授業内容】 ①情報収集 ②面接、スクリーニング ③検査			10	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
3	【到達目標】 検査を行う意義を知り、治療を必要とする対象者に適切な検査を選択し、治療につなげることができる 【授業内容】 ①検査を実施する前段階の知識 ②検査の種類 ③検査の解釈 ④治療の流れ			11	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
4	【到達目標】 対象者に行う検査を知り、説明ができる 【授業内容】 ①総合的検査 ②掘り下げ検査 ③知能検査 ④その他の検査			12	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
5	【到達目標】 対象者の観察に必要な面接、スクリーニングのポイントを知り、その技法を実施できる 【授業内容】 ①面接、スクリーニングの考え方 ②面接、スクリーニングの実践 ③面接の項目と技法			13	【到達目標】 症例の面接、スクリーニングを確認し、適切な評価、検査の選択が実施できる 【授業内容】 ①スクリーニング、面接内容の記録 ②症例の検討		
6	【到達目標】 適切にスクリーニング検査を実施することができる 【授業内容】 ①スクリーニング検査の理解 ②スクリーニング検査の実施			14	【到達目標】 適切な評価を実施し、内容をまとめることができる ※中間テスト 【授業内容】 ①症例の検討 ②レポートの提出		
7	【到達目標】 適切にスクリーニング検査を実施することができる レポートの書き方を知る 【授業内容】 ①スクリーニング検査の理解 ②スクリーニング検査の実施 ③レポートの書き方			15	【到達目標】 総合的検査の結果から、適切な掘り下げ検査を提示し、その理由が説明できる 【授業内容】 ①症例の検討 ②レポートの提出		
8	【到達目標】 実施した観察、スクリーニング検査を基に、適切な観察レポートを書くことができる 【授業内容】 ①レポートの書き方 ②レポートの提出			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅲ Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平野 祐紀
		授業形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 2, 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら、国家試験に向けての対策を行っていく。							
【到達目標】 ・前半では実習対策として、主に失語症・高次脳機能障害についての知識の整理、検査練習、検査の解釈、症例報告書の書き方など行い、実践的な力の向上を図る。 ・後半では国家試験対策として、主に失語症、高次脳機能障害に関して取り組み、知識の定着を図る。							
【使用教科書・教材・参考書】 「明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断-成人編」 医学と看護社				【授業外における学習】 毎回の授業後に復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 意識・注意レベルから捉え、適切に観察することができる 【授業内容】 初回面接・スクリーニングについて			9	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る①		
2	【到達目標】 症状から、目的に合った検査を検討することができる 【授業内容】 各検査の目的について①			10	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る②		
3	【到達目標】 症状から、目的に合った検査を検討することができる 【授業内容】 各検査の目的について②			11	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る①		
4	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる 【授業内容】 失語症検査の解釈について			12	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る①		
5	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる 【授業内容】 高次脳機能検査の解釈について			13	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る②		
6	【到達目標】 ゴール、プログラムを考えることができる 【授業内容】 症例呈示し、検討する			14	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る③		
7	【到達目標】 症例報告書を作成することができる 【授業内容】 症例報告書の書き方について			15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症Ⅱ aphasiaⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穰	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 水曜 2限	
学科・コース	言語聴覚士科							
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。								
【授業の学習内容】 失語症における言語症状、タイプ分類を理解し、治療計画の立案、訓練法の選択などより実践的な点を学んでいく。実務経験を生かし、臨床の現場や実習に必要な学びを得られるような授業を行います。また、現在の言語聴覚療法において主流となっている、認知神経心理学的プログラム(ロゴジェンモデル)を用いて症状を理解し、検査の解釈、目標設定、適切な訓練立案を行なえるようにわかりやすく学習する。								
【到達目標】 ① 失語症の基礎的知識、それぞれの失語タイプの特徴を復習する。 ② 失語症の障害メカニズムを言語処理モデル(ロゴジェン・モデル)に沿って学び、説明ができる。 ③ 検査結果を障害メカニズムに照らし合わせ、問題点から訓練方法を考え、その技法を学ぶ。								
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 失語症学第2版」医学書院 ・「失語症訓練の考え方と実際―新人STへのヒント―」三輪書店 他				【授業外における学習】 専門用語について、事前学習をしておくこと。				
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 失語症の基礎的知識を復習する。どのような言語症状を呈し、それぞれの失語症タイプの特徴を理解、説明できる。 【授業内容】 ①失語症とは何か ②失語症の言語症状			9	【到達目標】 言語処理モデルにおける単語、短文・長文の処理(理解)過程を説明することができる。 【授業内容】 ①単語・短文・長文の理解過程			
2	【到達目標】 治療における専門的対処を、ICFの概念から説明できる。リハビリテーションの過程、各期を考え、どのような関わりを持つ必要があるかを学ぶ。 【授業内容】 ①失語症治療の原則 ②ICFの概念 ③各期の言語治療			10	【到達目標】 言語処理モデルにおける言葉(呼称、復唱、動作説明、語列挙など)の表出過程を説明することができる。 【授業内容】 ①言葉の表出過程			
3	【到達目標】 刺激法、機能再編成法、遮断除去法などの訓練方法を説明することができる。 【授業内容】 ①失語症の言語治療:理論と技法			11	【到達目標】 言語処理モデルにおける読解や音読の処理過程を説明することができる。言語処理モデルにおける書称や書取の処理過程を説明することができる。 【授業内容】 ①読解・音読の過程 ②書称・書取の過程			
4	【到達目標】 行動変容法、実用コミュニケーション訓練、社会的アプローチ、孤立・代替コミュニケーション、MITなどの訓練方法を説明することができる。 【授業内容】 ①失語症の言語治療:理論と技法			12	【到達目標】 標準失語症検査の結果解釈を行ない、目標設定、適切な訓練の選択、訓練時の着眼点、注意点、訓練実施の際の注意点、訓練法を説明できる。 【授業内容】 ①検査の解釈、目標設定、訓練立案			
5	【到達目標】 言語処理モデル(ロゴジェンモデル)評価、診断、訓練法を説明することができる。 【授業内容】 ①失語症の言語治療:理論と技法			13	【到達目標】 標準失語症検査の結果解釈を行ない、目標設定、適切な訓練の選択、訓練時の着眼点、注意点、訓練実施の際の注意点、訓練法を説明できる。 【授業内容】 ①検査の解釈、目標設定、訓練立案			
6	【到達目標】 回復の予後を推測し、適切な関わりと回復過程を説明することができる。機能・症状ごとに治療適応を判断し、訓練計画を立てることができる。 【授業内容】 ①失語症の予後、回復 ②治療計画			14	【到達目標】 標準失語症検査の結果解釈を行ない、目標設定、適切な訓練の選択、訓練時の着眼点、注意点、訓練実施の際の注意点、訓練法を説明できる。 【授業内容】 ①検査の解釈、目標設定、訓練立案			
7	【到達目標】 急性期、回復期における言語聴覚士の関わり、評価、安全管理、評価・訓練、指導や援助などを説明することができる。 【授業内容】 ①急性期・回復期の訓練・援助			15	【到達目標】 治療の原則、理論と技法を理解し、評価・解釈、目標設定、訓練立案の総合的な理解を確認する。 【授業内容】 ①失語症の言語治療のまとめ ②定期試験			
8	【到達目標】 回復期における訓練、対応などを説明できる。維持期における評価・訓練、指導や援助、社会復帰に関する要因などを説明することができる。 【授業内容】 ①回復期・維持期(生活期)の訓練・援助、社会復帰 ②中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)				
【特記事項】								

科目名 (英)	高次脳機能障害Ⅱ Higher Brain DysfunctionⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	畦地 雄平
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 3、4限
【教員実務経験】 総合病院、訪問看護リハビリテーション勤務時、急性期及び生活期の高次脳機能障害の患者様のリハビリテーション業務の実務経験がある。							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で臨床経験を積んできた教員が、高次脳機能障害について理解を深められるように、神経心理学的症状のメカニズムを習得する授業を行う。具体的には、高次脳機能障害の原因疾患や背景症状のイメージを抱けるように実際の言語聴覚療法の動画や音声を活用する。高次脳機能障害の専門用語を適切に使用して説明できることを目標とする。							
【到達目標】 ・高次脳機能障害の原因と発症メカニズムを正しく理解する。 ・症状を正しく理解し評価をしうる機能を評価する。 ・検査の目的と留意点を正しく理解し正しく検査を行うことができる。また結果を正しく分析し訓練プログラムを立案することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害 第2版」医学書院 ・参考書 配布資料 他				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】視覚認知の障害① 【授業形態】講義 【到達目標】 視覚失認の定義、症状、病巣が説明ができる。 統覚・統合・連合型の特徴を説明できる。			9	【授業単元】脳梁離断症状① 【授業形態】講義 【到達目標】 左半球優位症状と発症メカニズムについて説明できる。		
2	【授業単元】視覚認知の障害② 【授業形態】講義 【到達目標】 相貌・色彩失認、地誌的見当識障害について説明できる。			10	【授業単元】脳梁離断症状② 【授業形態】講義 【到達目標】 右半球優位症状、左右半球間連合症状と発症メカニズムについて説明できる。		
3	【授業単元】触覚認知の障害 【授業形態】講義 【到達目標】 触覚失認の定義、症状、病巣が説明ができる。			11	【授業単元】脳外傷① 【授業形態】講義 【到達目標】 病態と症状について説明できる。		
4	【授業単元】聴覚認知の障害 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚失認の定義、症状、病巣が説明ができる。			12	【授業単元】脳外傷② 【授業形態】講義 【到達目標】 評価、訓練、援助について説明できる。		
5	【授業単元】身体意識・病態認知の障害 【授業形態】講義 【到達目標】 ゲルストマン症候群の兆候と検査法を説明できる。 病態失認の発症のメカニズムと責任病巣が説明できる。			13	【授業単元】運動ニューロン疾患の高次脳機能障害 【授業形態】講義 【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症(ALS)に伴う高次脳機能障害の症状、評価、診断を説明できる。		
6	【授業単元】行為・動作の障害① 【授業形態】講義 【到達目標】 運動水準の能力の障害について説明できる。			14	【授業単元】高次脳機能障害の評価 【授業形態】講義 【到達目標】 高次脳機能障害のスクリーニング検査を作成することができる。		
7	【授業単元】行為・動作の障害② 【授業形態】講義 【到達目標】 行為・動作水準の能力の障害について説明ができる。			15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】筆記試験・講義 【到達目標】 これまでの学習の習得状況を確認し、高次脳機能障害学の理解を深める。		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】筆記試験・講義 【到達目標】 これまでの学習の習得状況を確認し、内容理解を深める。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅲ Language Development DisordersⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中澤 裕也
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 2限
【実務経験】 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ポーター・早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】 言語発達障害児に対して、言語聴覚療法を実践してきた教員が自身の経験を含めて、質疑を繰り返し知識の定着を目指す。 また、障害像をより明確にする為に、DVD教材を活用し、視覚的に理解を深める。							
【到達目標】 ・注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。 ・脳性麻痺の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。 ・各種言語発達検査や知能検査法の適応年齢や概要・特徴を把握し、説明する事ができる。 ・各検査の実施手順を理解し、説明や実施する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版」 医学書院 配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の定義・概要を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの定義・言語・コミュニケーションの特徴。			9	【到達目標】 これまでの講義内容の復習し、内容を理解する。 中間テスト。 【授業内容】 中間テスト。		
2	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・支援を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの評価(検査法の概要)と具体的な支援方法。			10	【到達目標】 拡大・代替コミュニケーション(AAC)について、定義と概要や評価・支援法を学び、説明できる。 【授業内容】 AACの定義と概要や評価・支援法について。ローテクとハイテクの違い。VOCAの使用場面について。		
3	【到達目標】 脳性麻痺の動画から臨床像や特徴を把握する。また、グループで話し合い、ポイントを確認・共有する。 【授業内容】 動画視聴(脳性麻痺) グループワーク(情報の共有・グループで発表)			11	【到達目標】 知能検査法である、田中ビネーⅤ・WPSSI-Ⅲについての概要と、実施方法を学び、説明する事が出来る。 【授業内容】 田中ビネーⅤ・WPSSI-Ⅲについての概要と実施方法について。 検査内容の動画視聴。		
4	【到達目標】 脳性麻痺・重複障害の定義・原因や脳性麻痺における言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴を学び説明できる。 【授業内容】 脳性麻痺・重複障害の定義・原因について。 言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴。			12	【到達目標】 知能検査法である、KABC-Ⅱ・DN-CASについて概要・特徴を理解し、説明出来る。また、検査結果の解釈について理解し、説明出来る。 【授業内容】 KABC-Ⅱ・DN-CASについての概要と実施方法について。		
5	【到達目標】 脳性麻痺児の神経生理学的アプローチであるボバースアプローチについて学び、理解する。 【授業内容】 川名先生による「ボバースアプローチ」についての講義・演習。			13	【到達目標】 乳幼児から就学前の子どもの言語・コミュニケーション発達の評価法であるLCスケールについて、その概要と方法を理解し、説明出来る。 【授業内容】 LCスケールについての概要と実施方法について。		
6	【到達目標】 脳性麻痺児の神経生理学的アプローチであるボバースアプローチについて学び、理解する。 【授業内容】 川名先生による「ボバースアプローチ」についての講義・演習。			14	【到達目標】 子どもの会話能力の評価法である質問一応答関係検査の概要や実施方法・解釈を理解し、説明出来る。 【授業内容】 質問一応答関係検査の概要や実施方法・解釈のポイント。		
7	【到達目標】 脳性麻痺における言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴を学び、説明できる。 【授業内容】 病型別の麻痺の特徴や、言語コミュニケーションの特徴について。(流暢性など)			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 脳性麻痺の評価の概要・検査の種類や注意事項を目的等を学び、説明できる。 【授業内容】 評価・検査の種類や注意事項を目的について。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声障害Ⅰ Dysphonia	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大沢良輔
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 1, 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 医療機関の職員として、医師から指示を受け音声障害分野に携わる。							
【授業の学習内容】 音声障害の種類と内容、検査法、及び治療・訓練の理念とその方法を理解してほしい。そのためにも、難解な専門用語や理論を現場経験で身につけた経験を生かし独自の事例や知識を生かして独自資料にまとめ使用すると共に、具体的でわかりやすい質疑を繰り返し、記憶の定着を図る授業を行なっていく。その他、海外の音声治療に精通した方々をお呼びしセミナーを開催した経験から、言語聴覚士の役割について授業を展開する。							
【到達目標】 正常発声のメカニズムを理解し、音声障害をきたす疾患の特徴を知る。音声障害の評価として聴覚心理的評価や各検査法の特徴を理解し声の異常を検出できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書：発声発語障害学第3版 医学書院。配布資料。				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 喉頭の構造を理解したうえで喉頭の働きを理解する。また、喉頭を構成する軟骨を加え喉頭の枠組みを理解できる。 【授業内容】 発声の仕組みと声の障害			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 喉頭筋である内喉頭筋と外喉頭筋の役割を理解する。また喉頭筋の走行や神経支配を理解できる。 【授業内容】 発声器官の構造・機能			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 発声の神経として高位中枢や末梢神経系における制御を理解する。また、呼吸器の構造を理解し呼吸調節を理解できる。 【授業内容】 発声の生理とその調節			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 音声障害疾患の分類及び各疾患の特徴を理解する。 【授業内容】 音声障害をきたす疾患			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 音声障害をきたす疾患の原因を理解し、病態と疫学を説明できる。 【授業内容】 音声障害の原因			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 声の異常や自覚症状、他覚的症状・随伴症状を理解したうえで声質以外の特殊症状を説明できる。 【授業内容】 音声障害の症状			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 声の異常を評価する4要素を理解し聴覚心理的評価が行えるようになる。 【授業内容】 音声障害の評価(聴覚心理的評価)			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 本試験を通して、音声障害についての理解を定着させる 【授業内容】 本試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 特記事項無し							

科目名 (英)	器質性構音障害 Organic Articulation Disorders	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西脇恵子
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前 期 月曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 現在の勤務する施設では、口腔がん術後、口唇口蓋裂、舌小帯付着異常といった器質性構音障害の臨床が多い。							
【授業の学習内容】 授業は教科書に沿って行いが、担当教員は、各種の器質性構音障害に関する臨床経験が豊富であり、実際の音声や画像のデータを紹介しながら、この領域の理解をすすめる。また、評価の一部を実際にやってみたり、それに伴う考察を行う。または学生同士の演習も授業の中で行うので、それらに積極的な参加をすることが望ましい。							
【到達目標】 器質性構音障害の種類と原因疾患を知るとともに、その医学的な治療法を知り、言語聴覚士としての対応を理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 城本修・原由紀編標準言語聴覚障害学「発声発語障害学」第3版(医学書院)				【授業外における学習】 予習より復習が必要だと思います			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 器質性構音障害について学び、原因疾患や症状が理解できる。 【授業内容】 発話障害の中の器質性構音障害の定義や原因疾患、症状について			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 発声発語に関する筋や神経の走行と働きが理解できる。 【授業内容】 発声発語機能の成り立ち、発声発語に必要な筋や神経の走行			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 口唇口蓋裂の症状と治療、発話障害の症状と対応が理解できる。 【授業内容】 口唇口蓋裂に伴う症状と対応			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 構音障害の臨床における一連の流れが理解できる。 【授業内容】 中間テスト 構音障害の臨床について			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 舌小帯付着異常の症状と治療、発話障害の症状と対応が理解できる。 【授業内容】 舌小帯付着異常に伴う症状と対応			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 口腔がんの症状と治療、発話障害の症状と対応が理解できる。 【授業内容】 口腔がん術後に伴う症状と対応			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 先天性鼻咽腔閉鎖不全症、舌の形成不全、下顎前突症といったその他の器質性構音障害の症状と対応が理解できる 【授業内容】 その他の器質性構音障害の症状と対応			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 【授業内容】 定期試験・授業の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
	DysarthriaⅡ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 3限
学科・コース	言語聴覚士						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で運動性構音障害患者様にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、運動性構音障害の基礎知識(定義、解剖生理、タイプ分類)、発話特徴、検査評価の復習を行った後、新たに各症状に応じた治療、訓練法を講義する。最終的には、実習に向けて、事例検討を実施して、適切な評価と訓練プログラムの立案ができるように演習を行っていく。							
【到達目標】 ・運動性構音障害の基礎的な知識について説明ができる ・各訓練方法を正しく理解し、実際に実施することができる ・検査から得られた結果より、タイプ分類を行い、適切な訓練プログラムの立案ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第2版」医学書院 ・ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 運動性構音障害Ⅰの内容を理解し説明できる 【授業内容】 運動性構音障害の定義より運動性構音障害Ⅰの内容を復習			9	【到達目標】 口腔構音機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 口腔構音機能訓練について学習し、実習を行う② (p170～172)		
2	【到達目標】 AMSDの実施時の教示の仕方、留意点を理解し実施できる 【授業内容】 臨床実習に向けて、AMSDの実施方法の復習を実施する			10	【到達目標】 発話速度の調節法の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発話速度の調整法について学習し、実習を行う (p172～178)		
3	【到達目標】 呼吸訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 呼吸器訓練について学習し、実習を行う (p138～145)			11	【到達目標】 AAC(ローテク・ハイレク)の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 AAC(ローテク・ハイレク)について学習し、実習を行う (p178～198)		
4	【到達目標】 発声機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発声機能訓練について学習し、実習を行う①			12	【到達目標】 言語治療目標の立て方を理解し説明することができる 【授業内容】 言語治療目標の立て方を学習する		
5	【到達目標】 発声機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発声機能訓練について学習し、実習を行う②			13	【到達目標】 AMSDのプロフィールから問題点を抽出し適切な訓練を選択できる 【授業内容】 症例検討①		
6	【到達目標】 鼻咽腔閉鎖機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 鼻咽腔閉鎖機能訓練について学習し、実習を行う			14	【到達目標】 AMSDのプロフィールから問題点を抽出し適切な訓練を選択できる 【授業内容】 症例検討②		
7	【到達目標】 口腔構音機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 口腔構音機能訓練について学習し、実習を行う①			15	【到達目標】 本講義を受講した知識を用いて、国家試験の模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 前半で学んだ内容について理解して説明できる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 訓練の実施練習をするので、2回目～4回目までは、動きやすい服装でご参加ください。							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
	DysarthriaⅡ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 3限
学科・コース	言語聴覚士						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で運動性構音障害患者様にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、運動性構音障害の基礎知識(定義、解剖生理、タイプ分類)、発話特徴、検査評価の復習を行った後、新たに各症状に応じた治療、訓練法を講義する。最終的には、実習に向けて、事例検討を実施して、適切な評価と訓練プログラムの立案ができるように演習を行っていく。							
【到達目標】 ・運動性構音障害の基礎的な知識について説明ができる ・各訓練方法を正しく理解し、実際に実施することができる ・検査から得られた結果より、タイプ分類を行い、適切な訓練プログラムの立案ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第2版」医学書院 ・ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 運動性構音障害Ⅰの内容を理解し説明できる 【授業内容】 運動性構音障害の定義より運動性構音障害Ⅰの内容を復習			9	【到達目標】 口腔構音機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 口腔構音機能訓練について学習し、実習を行う② (p170～172)		
2	【到達目標】 AMSDの実施時の教示の仕方、留意点を理解し実施できる 【授業内容】 臨床実習に向けて、AMSDの実施方法の復習を実施する			10	【到達目標】 発話速度の調節法の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発話速度の調整法について学習し、実習を行う (p172～178)		
3	【到達目標】 呼吸訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 呼吸器訓練について学習し、実習を行う (p138～145)			11	【到達目標】 AAC(ローテク・ハイレク)の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 AAC(ローテク・ハイレク)について学習し、実習を行う (p178～198)		
4	【到達目標】 発声機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発声機能訓練について学習し、実習を行う①			12	【到達目標】 言語治療目標の立て方を理解し説明することができる 【授業内容】 言語治療目標の立て方を学習する		
5	【到達目標】 発声機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発声機能訓練について学習し、実習を行う②			13	【到達目標】 AMSDのプロフィールから問題点を抽出し適切な訓練を選択できる 【授業内容】 症例検討①		
6	【到達目標】 鼻咽腔閉鎖機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 鼻咽腔閉鎖機能訓練について学習し、実習を行う			14	【到達目標】 AMSDのプロフィールから問題点を抽出し適切な訓練を選択できる 【授業内容】 症例検討②		
7	【到達目標】 口腔構音機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 口腔構音機能訓練について学習し、実習を行う①			15	【到達目標】 本講義を受講した知識を用いて、国家試験の模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 前半で学んだ内容について理解して説明できる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 訓練の実施練習をするので、2回目～4回目までは、動きやすい服装でご参加ください。							

科目名 (英)	嚥下障害 I Dysphagia I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川口 静
学科・コース		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 1, 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 急性期病院でのリハビリ業務の経験22年							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 摂食嚥下に関わる解剖やモデルについて解説する。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会における様々な評価方法は実技も交え演習し、訓練内容についても動画等を使用し説明する。							
【到達目標】 摂食嚥下についての解剖や5期モデル、摂食嚥下評価・訓練について理解し、実践できる力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ①見える！わかる！摂食嚥下のすべて ②標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害第2版				【授業外における学習】 毎回授業後に復習すること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 摂食嚥下の解剖や5期モデルについて説明できる。 【授業内容】(①P14～) 摂食嚥下の解剖 5期(先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期)			9	【到達目標】 嚥下造影(VF)の見方がわかる。 【授業内容】(①P172～) 嚥下造影(VF)の観察項目、異常所見		
2	【到達目標】 摂食嚥下をつかさどる神経 摂食嚥下訓練の開始基準について説明できる。 【授業内容】(①P40～) 摂食嚥下をつかさどる神経について理解する。 摂食嚥下訓練の開始基準について			10	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解する。 【授業内容】(①P172～) 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より10～11)・実習		
3	【到達目標】 摂食嚥下の観察ポイントがわかる。 摂食嚥下評価方法について理解し、実践できる。 【授業内容】(①146～) 摂食嚥下の観察ポイント 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より0～3)・実習			11	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解する。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より12～14)・実習		
4	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解し、実践できる。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より4～7)・実習			12	【到達目標】 摂食嚥下に基づいた訓練立案ができる。 【授業内容】 訓練内容について(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より抜粋)		
5	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解し、実践できる。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より8)・実習			13	【到達目標】 摂食嚥下評価に基づいた訓練計画を立てることができる。 【授業内容】(①P262～) 訓練内容について(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より抜粋)		
6	【到達目標】 嚥下内視鏡(VE)の見方がわかる。 【授業内容】(①P163～) 嚥下内視鏡(VE)の観察項目、異常所見			14	【到達目標】 適切な食形態・食事介助 【授業内容】(①P262～) 訓練内容について(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より抜粋)		
7	【到達目標】 嚥下内視鏡(VE)の見方がわかる。嚥下造影(VF)の見方がわかる。 【授業内容】(①P163～) 嚥下内視鏡(VE)の観察項目、異常所見 嚥下造影(VF)の観察項目、異常所見			15	【到達目標】 定期試験を通してこれまでの学習内容を復習する。 【授業内容】 定期試験 解説授業		
8	【到達目標】 中間テストを通してこれまでの学習内容を復習する。 【授業内容】 中間テスト 解説授業			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅱ DysphagiaⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	室田 由美子
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 2, 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 病院・訪問リハビリテーション・児童発達支援放課後等デイサービス・特別支援学校にて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 摂食嚥下障害の成人分野と小児分野での幅広い臨床経験を活かし、症例を紹介しながら間接的・直接的嚥下訓練の意義と方法を伝える。また、演習やOSCEなどを取り入れ、実践的な技能の習得を目指す。摂食嚥下障害の当事者や家族や多職種に対し、専門職として適切な治療法を選択でき、その理由を明確に説明できるようにしてほしい。							
【到達目標】 ・間接的嚥下訓練や直接的嚥下訓練の意義や方法が分かり、実施できる。 ・小児の嚥下評価と訓練法が分かる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「摂食嚥下リハビリテーション第3版」 医歯薬出版				【授業外における学習】 教科書該当ページを読んで予習できると良い。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 間接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。① 【授業内容】p195-202 口腔器官の可動域改善や筋力増強訓練について学ぶ。			9	【到達目標】 健常児の摂食嚥下の発達が分かる。小児の嚥下評価が分かる。 【授業内容】p106-112、185-187 哺乳反射、摂食機能発達の8段階、小児の嚥下評価の流れとリスク管理を学ぶ。		
2	【到達目標】 間接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。② 【授業内容】p195-198、202-206 嚥下促進法、咽頭期の改善を目的とした訓練について学ぶ。			10	【到達目標】 標準的な小児の摂食嚥下訓練法が分かる。 【授業内容】p227-236 過敏の除去、バンゲード法、ガムラビング、咀嚼訓練などの代表的な訓練方法を学ぶ。		
3	【到達目標】 間接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。③ 【授業内容】p202-211 嚥下手技、バルーン拡張法、電気刺激法、藤島式嚥下体操について学ぶ。			11	【到達目標】 小児の液体摂取の訓練法が分かる。小児の症例検討ができる。 【授業内容】 事例を通して、小児の摂食嚥下評価と今後の方針を立案する。		
4	【到達目標】 直接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。 【授業内容】p202-211 シャキア法、息こらえ嚥下、努力嚥下、バルーン拡張法などの訓練法を演習をまじえて学ぶ。			12	【到達目標】 誤嚥性肺炎・窒息・気管切開管理のリスク管理が分かる。 【授業内容】p252-263 肺炎や窒息の治療や応急処置を学ぶ。気管カニューレの仕組みや種類について学ぶ。		
5	【到達目標】 摂食嚥下の間接訓練と直接訓練について復習する。 【授業内容】 間接的・直接的嚥下訓練の概要について、ワークシートにまとめる。			13	【到達目標】 栄養管理や嚥下食の概要が分かる。 【授業内容】p266-282 栄養状態の評価や胃瘻からの半固形化法について学ぶ。嚥下調整食やとろみ調整食品について学ぶ。		
6	【到達目標】 食具の工夫について理解する。呼吸訓練の意義と方法を理解し、実施できる。 【授業内容】p219-220、226-227 ノーズカットコップ、すくいやすい皿、口すぼめ呼吸、横隔膜呼吸、ハフティングなどについて学ぶ。			14	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、臨床実習や国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 これまでの学習内容について、問題を解きながら復習する。		
7	【到達目標】 口腔ケアの留意点が分かる。「日本摂食嚥下リハ学会 訓練法のまとめ2014」の概要が分かる。 【授業内容】p189-194 口腔ケアについて学ぶ。開口訓練、舌接触補助床(PAP)、軟口蓋挙上装置(PLP)などについて学ぶ。			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 ベッド上での姿勢調整ができる。直接訓練が安全に行える。 【授業内容】 OSCE(ベッド上でのトロミ水の直接訓練)を実施する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	吃音 Stuttering	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	湯浅 美琴
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 3, 4 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 総合医療センターにて言語聴覚士として勤務							
【授業の学習内容】 予定:教科書で専門用語や基礎的な事項を学びながら、実際の症状を映像や音声で参照することで理解を深めます。症状も様々で当事者の困りごと多岐にわたる吃音を講師の臨床経験を交えて講義を進めていこうと思います。症状のみに着眼するのではなく、当事者を取り巻く環境を含めた包括的な考え方ができることが大切です。							
【到達目標】 吃音をはじめとする流暢性障害の原因、症状の説明ができる。 吃音の評価の方法を知り、具体的な手続きを理解する。 リハビリテーションの方法を知り、その内容を説明できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学－発声発語障害学 第2版(医学書院)、配布資料				【授業外における学習】 事前に教科書を読み、講義の後も復習してください。また、当事者の方の本などを読むこともお勧めします。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 実際の症状を見ながら、流暢性障害とは何かを知り、説明できる。 様々な吃音の原因論を列挙できる。 【授業内容】 流暢性障害の定義、吃音研究の動向、原因論について			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 吃音中核症状、その他の非流暢性、随伴症状、工夫・回避、情緒性反応の説明ができる。 【授業内容】 吃音の症状と非流暢性の症状			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 吃音中核症状、その他の非流暢性、随伴症状、工夫・回避、情緒性反応の説明ができる。 【授業内容】 吃音の症状と非流暢性の症状			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 吃音の評価の中で、主に使われるものを知り、その目的と方法を理解し、説明できる。実際に体験し、臨床で使える準備をする。 【授業内容】 中間テスト 吃音の評価			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 吃音の評価の中で、主に使われるものを知り、その目的と方法を理解し、説明できる。実際に体験し、臨床で使える準備をする。 【授業内容】 吃音の評価			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 様々な訓練方法を知り、その目的と方法を理解し、説明できる。社会資源を知り、それらを説明できる。 【授業内容】 吃音の訓練法、社会資源			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 主訴、得られた情報、吃音評価などを踏まえて訓練計画を立て、実施する流れを知り、説明ができる。 【授業内容】 訓練計画の立案と実施			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 吃音の症状、原因、それに対する対応を理解し、全体的なりハビリテーションの方法についての説明ができる。 【授業内容】 定期テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児聴覚障害 Pediatric hearing impairment	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	近藤 由以子
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 成人の脳血管障害(回復期・生活期)、神経難病の臨床に10年以上の経験あり。現在は成人聴覚障害、小児聴覚障害・発達障害等の臨床に携わる。							
【授業の学習内容】 予定:前半では末梢性難聴と中枢性難聴における聴覚特性および鑑別のための評価と適切な補聴について講義する。後半では聴覚障害児における聴覚・言語・コミュニケーション障害について、言語障害症状の鑑別に必要な言語・コミュニケーション評価についてその原理と実施方法を講義し、また各発達段階における言語障害症状の改善に必要な聴覚学習、言語・コミュニケーション指導について、聴覚障害児と家族に対する心理社会的支援についても論述する。							
【到達目標】 ①小児聴覚障害学と関連領域の主要な用語と理論を理解する。 ②聴覚障害児の発達段階に応じた支援の基礎的知識と技法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版」 医学書院				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】聴こえのしくみと難聴の種類、難聴の原因と病態 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期における難聴の病態(発症時期による言語習得違い、難聴の種類と特性、遺伝性などの種類と病態等)について理解を深める。						
2	【授業単元】末梢性聴覚障害と中枢性聴覚障害の聴覚特性と評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 末梢性聴覚障害と中枢性聴覚障害の聴こえの特性を知り、評価方法についての理解を深める。						
3	【授業単元】聴覚の発達について 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期の発達と難聴の影響について理解を深める。						
4	【授業単元】小児の聴覚検査と種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達段階に対応した小児の各聴覚検査の種類と方法を理解する。						
5	【授業単元】言語・コミュニケーションの発達について 【授業形態】 講義 【到達目標】 難聴児の言語発達・言語獲得の方法について理解を深める。						
6	【授業単元】言語・コミュニケーションの評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語・コミュニケーション評価の種類、方法について理解する。聴覚障害児の会話方式の種類、方法を理解する。						
7	【授業単元】難聴児への支援と訓練計画 【授業形態】 講義 【到達目標】 難聴児に対する指導方法(聴覚活用・聴覚学習等)と保護者への支援について理解する。						
8	【授業単元】まとめと復習 【授業形態】 講義・筆記試験 【到達目標】 国家試験に向け、小児の聴覚障害の内容について総合的に理解が来ているかを確認する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、中間テスト(4コマ目授業内)40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	成人聴覚障害 Auditory Rehabilitation	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高須一美、畦地 雄平
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火、金曜 2限
【実務経験】 企業研修や学校・保育現場、病院、講演会、TV政見放送通訳等。							
【授業の学習内容】 現場で使えるコミュニケーション方法の一つとしての「手話」の基礎を伝えていける授業としたい。「見る」だけでなく、「実際にやる授業」実践力を伝えたい。							
【到達目標】 簡単なコミュニケーションが、手話のできるようになる。 先天性難聴や中途失聴や老人性難聴などの難聴の影響、情報補償について学ぶ。国家試験で問われる知識を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 手話テキスト I (必要部分のコピー) 標準言語聴覚障害学－聴覚障害学 第3版 医学書院				【授業外における学習】 その日に学んだことは出来る限りその日に定着する様に心掛ける。わからない事 予習は特に必要ないが、授業で覚えた内容は復習して、次回の授業で分からない事			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 手話とどのような言語なのかを理解する。手話で会話をする時に気を付けることを理解する。コミュニケーション方法の一つとして身に付ける。 【授業内容】 実際に自ら手を動かして、簡単な挨拶が出来るようになる。日常会話で覚えておく便利な単語をいくつか紹介して使えるようになる。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 名字の表現を覚える。相手に尋ねる・答えるのコミュニケーション技術を習得する。「指文字」の解説。 【授業内容】 学生一人ひとりが、自分の名字を表現出来るようになる。「指文字」を使って名前の表現が出来るようになる。			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 時制に関する手話、曜日の表現、数字の表現方法を身に付ける。 【授業内容】 [今日・来週・一か月前・金曜日等]の表現を覚え、短文が表現出来るようになる。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 「疑問詞」を覚える簡単なコミュニケーションが手話で出来るようになる。手話以外のコミュニケーション方法についても理解を深める。 【授業内容】 4回の授業の総まとめとして、相手と手話で会話をする技術の基礎を習得する。伝える気持ちの大切さを理解する。			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 成人聴覚障害とは何か、聴覚障害が及ぼす影響について理解する 【授業内容】 成人聴覚障害とは			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 聴覚障害への検査・支援について理解する 【授業内容】 成人聴覚障害における評価、指導・支援			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 視覚聴覚二重障害の原因・特徴を理解する 【授業内容】 視覚聴覚二重障害			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまで学んだ成人聴覚障害について復習を行い、理解を定着させる。 【授業内容】 定期試験、総復習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法 II Hearing Test II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	畦地 雄平
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3、4 限
【教員実務経験】 総合病院、訪問看護リハビリテーション勤務時、急性期及び生活期のリハビリテーション業務の実務経験がある。							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で臨床経験を積んできた教員が、聴覚検査について理解が深められるように聴覚検査の検査法を習得できる授業を行う。具体的には、検査前の準備、検査法のイメージを抱けるように実場面の動画を豊富に活用して教授する。また聴覚検査内で取り扱う専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。							
【到達目標】 聴力検査の種類、目的、検査方法や手順、結果の解釈が説明することができる。 純音聴力検査・語音聴力検査の正しい方法を学び、実際に実施ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・教科書:「標準言語聴覚検査学 聴覚障害学」医学出版 ・参考書:「聴覚検査の実際 改訂3版」南山堂				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 聞こえの仕組みと解剖学的部位を理解し説明できる。 【授業内容】 聞こえの仕組み			9	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の説明する。気導聴力検査の本検査の方法を説明する。骨伝導検査の方法を説明する。 【授業内容】 純音聴力検査①		
2	【到達目標】 音響性耳小骨筋反射検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 音響性耳小骨筋反射検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。			10	【到達目標】 マスキングの必要性を説明する。 【授業内容】 純音聴力検査②		
3	【到達目標】 自記オージオメトリ、ABLBテスト、SISIテストの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 内耳機能検査①			11	【到達目標】 検査前の準備、検査の手順の確認を行い実際にGWでオージオメーターを使用し気導聴力検査を実施する。 【授業内容】 純音聴力検査③		
4	【到達目標】 DL検査、MCL&UCL検査、OAEの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 内耳機能検査②			12	【到達目標】 語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。 目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 語音聴力検査①		
5	【到達目標】 聴性誘発反応検査の目的、方法を説明する。 【授業内容】 聴性誘発反応検査			13	【到達目標】 ティンパノメトリーの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 語音聴力検査②		
6	【到達目標】 耳鳴検査、成人の選別聴覚検査の目的、方法を説明する。 【授業内容】 耳鳴検査・成人の選別聴力検査			14	【到達目標】 検査前の準備、検査の手順の確認を行い実際にGWでオージオメーターを使用し語音聴力検査を実施する。 【授業内容】 語音聴力検査③		
7	【到達目標】 機能性聴覚障害の検査、評価の目的、方法を説明する。 視覚聴覚二重障害の検査、評価、コミュニケーション支援の説明する。 【授業内容】 機能性聴覚障害、視覚聴覚二重障害			15	【到達目標】 これまで学んだ内容の総復習を行い、理解を深める。 【授業内容】 定期試験、解説		
8	【到達目標】 中間試験終了後に各検査の重要ポイントを総復習し理解を深める。 【授業内容】 中間試験、総復習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	補聴器・人工内耳 Hearing Aid and Cochlear Implant	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	千葉星雄
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 3, 4 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 言語聴覚士として補聴器専門店や補聴器メーカーでの勤務を経て、補聴器専門店を運営。主に成人難聴者への補聴器フィッティングを行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 言語聴覚士として補聴器専門店を運営する担当教員が、補聴器の構造や機能、フィッティング理論、適合検査についての授業を行う。教科書等での知識の伝達だけでなく、実際の補聴器や補聴援助機器に触れる機会を設け、より実務に則した知識の定着を図る。言語聴覚士国家試験に対応する内容をカバーしながらも、テクノロジーの進化が著しい分野であるため、できる限り最新の技術や知見も合わせて紹介する。							
【到達目標】 聴覚障害者に対する聴覚補償機器の一つである補聴器の構造や機能、特徴について理解し説明することができる。 補聴器のフィッティング理論や適合検査について学び、難聴者への適切な補聴器供給を行うための知識を身に着ける。 障害者総合支援法による補装具費支給制度や各種補聴援助システムについて理解し、難聴者への支援についての知識を深める。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」医学書院 ・必要に応じて適宜資料を配布する				【授業外における学習】 音響学や聴覚系の解剖生理の知識が前提となるため復習しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 補聴器の基本構造、種類や特徴について理解する。 【授業内容】 補聴器の構造と機能①			9	【到達目標】 補聴器適合検査の指針に基づく適合評価について理解する。 【授業内容】 補聴器適合検査		
2	【到達目標】 デジタル補聴器の機能について理解する。 【授業内容】 補聴器の構造と機能②			10	【到達目標】 各種補聴援助システムと補装具費支給制度について理解する 【授業内容】 各種補聴援助システム・補装具費支給制度		
3	【到達目標】 補聴器周波数特性の測定と調整について理解する。 【授業内容】 補聴器の周波数特性①			11	【到達目標】 授業の総括と定期試験によって知識の定着を図る 【授業内容】 まとめ・定期試験		
4	【到達目標】 補聴器の性能や調整状態を示す用語、JISについて理解する。 【授業内容】 補聴器の周波数特性②			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 リニア増幅とノンリニア増幅について理解する。 【授業内容】 補聴器の周波数特性③			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 補聴器の適応や装用耳・器種の選択、初期設定について理解する。 【授業内容】 補聴器のフィッティング①			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 実耳測定とファンクショナルゲイン測定について理解する。 【授業内容】 補聴器のフィッティング②			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 耳型採取の実施手順や注意事項、イヤモールドについて理解する。 【授業内容】 耳型採取とイヤモールド			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	解剖学Ⅰ AnatomyⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 3, 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、脳血管障害、誤嚥性肺炎の患者様のリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で、脳血管障害、誤嚥性肺炎の患者様のリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、臨床で必要となる画像の読影について講義を行う、また画像読影から障害像を推測し評価の為の検査や訓練について検討する実習を行っていく。							
【到達目標】 ・脳画像を読影して脳の部位の名称を答えることができる ・CT、MRI、f-MRI等の画像の特徴を説明することができる ・画像所見から疾患を鑑別することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 脳画像 医学書院				【授業外における学習】 授業後に毎回の復習を行うこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 脳の側面図の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 脳の側面図の解剖			9	【到達目標】 脳梗塞の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳梗塞の読影		
2	【到達目標】 水平断スライス(基底核レベル・放線冠レベル)の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 水平断スライス(基底核レベル・放線冠レベル)の解剖			10	【到達目標】 脳梗塞の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳梗塞の読影②		
3	【到達目標】 水平断スライス(半卵円中心・頭頂部レベル)の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 水平断スライス(半卵円中心・頭頂部レベル)の解剖			11	【到達目標】 脳出血の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳出血の読影		
4	【到達目標】 水平断スライス(中脳・橋・延髄レベル)の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 水平断スライス(中脳・橋・延髄レベル)の解剖			12	【到達目標】 認知症の読影と変性部位より障害を説明できる 【授業内容】 認知症の読影		
5	【到達目標】 前大脳動脈の支配領域・損傷による障害を理解し説明することが出来る 【授業内容】 前大脳動脈の支配領域・損傷による障害			13	【到達目標】 認知症の読影と変性部位より障害を説明できる 【授業内容】 認知症の読影		
6	【到達目標】 中大脳動脈の支配領域・損傷による障害を理解し説明することが出来る 【授業内容】 中大脳動脈の支配領域・損傷による障害			14	【到達目標】 脳卒中・認知症以外疾患の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳卒中・認知症以外疾患の読影		
7	【到達目標】 後大脳動脈の支配領域・損傷による障害を理解し説明することが出来る 【授業内容】 後大脳動脈の支配領域・損傷による障害			15	【到達目標】 解剖学Ⅱで学んだ知識を用いて問題に解答することができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 全7回までの内容を理解し問題に解答することができる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	医療安全 Medical Quality and Safety	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穰、田口 範子、新田 紀恵
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 3, 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 医療に関わる者としての基礎知識、管理法などを学ぶ。 臨床場面で求められる正確性の高い処置や、対応を知るために必要な、医学的対処法を講義、演習を交えて学ぶ。							
【到達目標】 ・医療的ケアの基礎知識やリスク管理や経管栄養法のポイントについて説明できる。 ・感染対策、吸引、聴診、バイタルサイン測定、緊急時対応などの手技を実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「写真でわかる介護職のための医療的ケア」 インターメディカ				【授業外における学習】 復習を重視し、知識や手技の習得を図ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】リスク管理① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 医療現場で必要となるリスク管理について説明できる。			9	【授業単元】経管栄養法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 経管栄養法の基礎知識について説明することができる。経管栄養のケアについて手順を理解できる。		
2	【授業単元】リスク管理② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 医療現場で必要となるリスク管理について説明できる。			10	【授業単元】感染予防(新田) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 衛生的な手洗いができる。手袋、ガウン、マスクの正しい使用方法を実践できる。		
3	【授業単元】バイタルサインの測定 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 体温測定、血圧測定(手動式含む)、心拍数や呼吸数やSpO2測定について、正しく実施することができる。			11	【授業単元】喀痰吸引① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 吸引の基礎知識について説明できる。口腔内吸引・鼻腔内吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
4	【授業単元】緊急時の対応 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自動体外式除細動器(AED)を含む一次救命処置の流れを実施することができる。			12	【授業単元】喀痰吸引② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 口腔内吸引・鼻腔内吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
5	【授業単元】聴診 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 胸部聴診に関する基礎知識について説明できる。聴診器の取り扱いや、聴診の方法について正しく実施できる。			13	【授業単元】喀痰吸引③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 気管カニューレ内部吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
6	【授業単元】医療的ケアの基礎知識、安全管理体制(田口) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 医療的ケアの種類や、ヒヤリハット・アクシデント報告を含む安全管理体制について説明できる。			14	【授業単元】喀痰吸引④ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 気管カニューレ内部吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
7	【授業単元】口腔ケア 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 口腔ケアの基礎知識について説明できる。			15	【授業単元】定期試験、総復習 【授業形態】試験、講義・演習 【到達目標】 定期試験にてこれまでの学習内容や手技についての習得状況を確認する。		
8	【授業単元】中間試験、総復習 【授業形態】試験、講義・演習 【到達目標】 これまでの学習内容や手技を確認する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座 I Comprehensive Course for Speech and Hearing I	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 病院、老人保健施設、訪問業界で臨床経験を積んできた教員の指導を基に成人の学内実習を行い、評価や治療計画立案や治療を経験する。具体的には症例検討や実際に患者様と接し言語聴覚士として初期の全体スクリーニングが実施できる力をつけ、スクリーニングから言語聴覚障害診断につなげる能力を養う。また臨床実習IIに向け観察所見報告書、症例報告書の記載方法、メモのとり方など実践を通して学ぶことができる。							
【到達目標】 言語聴覚療法における評価・診断の流れを説明できる ●言語聴覚療法の評価プランの立て方について説明できる●言語聴覚療法の評価・診断において収集する情報の種類と収集方法を説明できる・スクリーニング検査総合的(鑑別診断)検査特定(掘り下げ)検査の違い(目的と関連性)について説明できる ●収集した情報のまとめ方(情報の分析と統合)について説明できる●問題点抽出、適応の判断予後予測、方針の決定の方法について説明できる							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:「明日からの臨床・実習に使える 言語聴覚障害診断 成人編 改定第2版」医学と看護社				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 スクリーニングの実施する必要性を説明することができる。 【授業内容】 ①STADスクリーニング検査の意義 ②STADの演習			9	【到達目標】 MMSE、HDS-Rの設問の意味や設問の結果からどのような症状が読み取れるのか、MMSEとHDS-Rとの違いを説明することができる。 【授業内容】 ①HDS-RとMMSEの検査法を学び演習する ②簡易スクリーニング検査の注意点を改めて確認する		
2	【到達目標】 STAD(スクリーニング検査)を実施している場面を観察し適切に評価、観察ポイントを記載することができる。 【授業内容】 STADの演習を行い適切に評価、診断をすることができる。 教員によるOSCEを観察し適切に評価、メモを取ることができる。			10	【到達目標】 MMSEの検査を行うことができる HDS-Rの検査を取ることができる 【授業内容】 演習を通して検査方法を学び実施することができる。 結果から症状を理解することができる。		
3	【到達目標】 言語性・視覚性・知能性の掘り下げ検査の種類を知り説明することができる。 【授業内容】 ①言語性検査 ②視覚性検査 ③知能性検査			11	【到達目標】 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の検査法や実施の目的、結果の解釈を学び説明することができる。 【授業内容】 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の検査法理解することができる。		
4	【到達目標】 実際の場面を想定しメモを取る。変化した内容や障害されている機能、残存している機能などを観察し評価を行うことができる。 【授業内容】 患者様の動画、音声を活用した初回評価、インテークを実践することができる。			12	【到達目標】 演習を通して検査方法を学び実施し、結果から症状を理解することができる。レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)を行うことができる 【授業内容】 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の検査演習		
5	【到達目標】 患者様の基礎情報、現病に関する情報を収集することができる。 【授業内容】 言語聴覚士による初回評価、訓練場面を観察し言語聴覚士の行っている訓練の意図や指定された評価用紙に適切にメモを取ることができる。			13	【到達目標】 評価報告書、観察レポートを作成するうえでの注意点を理解し、これまで関わってきた患者様の報告書を記載することができる。 【授業内容】 評価報告書を書く目的、注意事項、報告書の形式を学ぶ。 観察レポートを書く目的、注意事項、報告書の形式を学ぶ。		
6	【到達目標】 患者様の基礎情報、観察情報を元に訓練プログラム、訓練目標の立案ができる。 【授業内容】 言語聴覚士の訓練場面を観察し、情報収集を行う。言語聴覚士が実施した訓練や質問の意図を汲みとることができる。			14	【到達目標】 評価報告書、観察レポートを作成するうえでの注意点を理解し、これまで関わってきた患者様の報告書を記載することができる。 【授業内容】 査や観察で得られた情報を元に評価報告書、観察レポートにまとめ、記入する。		
7	【到達目標】 患者様の基礎情報、観察情報を元に訓練プログラム、訓練目標の立案ができる。 【授業内容】 言語聴覚士の訓練場面を観察し、情報収集を行う。言語聴覚士が実施した訓練や質問の意図を汲みとることができる。			15	【到達目標】 評価報告書、観察レポートの提出 症例検討 【授業内容】 検査や観察で得られた情報を元に評価報告書、観察レポートにまとめ、記入する。		
8	【到達目標】 観察、検査、情報提供書を元に訓練計画プログラムを立案する。 【授業内容】 中間テスト:患者様の訓練目標、訓練プログラムの立案各グループで提出			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅱ Comprehensive Course for Speech and HearingⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	言語聴覚士科教員
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 1限
【実務経験】 言語聴覚士他							
【授業の学習内容】 次の内容をゼミ形式で学ぶ。 福祉分野テーマ:「コミュニケーション」、嚥下分野テーマ:「安全に十分な栄養を摂るための知識と技術」							
【到達目標】 ・言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 授業毎に異なるため、コマシラバスを確認ください。				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			9	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
2	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			10	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
3	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			11	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
4	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			12	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
5	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			13	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
6	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			14	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
7	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			15	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)		
8	【到達目標】 言語聴覚療法に必要な知識や技術そして応用力を身につける。 【授業内容】 ゼミ(その都度指示する)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							